

二〇一五年 十月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

今を生きて咲き 今を生きて散る 花たち
今を忘れて生き 今を忘れて過ぐす 人間たち

坂村真民

花壇や道端に咲いている花。それを見てあなたは何を感じるでしょうか。坂村さんは、その花と自分自身の姿を重ねたのでしよう。この詩には続きがあります。「ああ花に恥し心いたむ日々」と締め括られています。

日々の生活の中で、つい忘れがちになってしまいますが、「今という時間」を大切に、道端の花が美しく彩るように、私たちも自分という花を精一杯咲かせていきたいものです。ふと花を見たとき、「今を忘れて生きていないか、過ぐしていないか」と思い出してみてください。

いよいよ今月から後期の学校生活がスタートします。節目の時期は大切です。しっかりと自分自身の振り返りをして、後期に活かしましょう。そして、勉強や部活動、それぞれの目標に向けて「今という時間」を大切に、日々精進していきましょう。

今月の聖語

生まれたことは ありがたく、
生きることも ありがたい。

『ダンマパダ』

『ダンマパダ』とは、釈尊の教えを集めたもので、人間そのものへの深い反省や生活の指針を短い句によって示したものです。

たくさんの人の繋がりがあって、私たちはこの世に誕生しました。つまり、父・母・祖父・祖母……。いのちの繋がりは果てしない程広がりますが、その中で一人でも欠けていたら今の私はいないことになりました。まさに「有り難い」ということであり、奇跡と言っても過言ではないでしょう。また、私たちが生きていくことも、多くの人の支えや励ましがあり、衣食住に関しても多くのいのちをいただいています。

これらのことを踏まえると、私たちは、「感謝」の気持ちを持ちながら生きていかなければならないことを改めて感じます。身近な人をはじめ、みなさんを取り巻く人やものに、改めて目を向けてみてはどうでしょうか。

宗教教育係

合掌